

市民からの情報提供で、貴重な資料を確認しました！

今回、市民からの情報提供で、財部町の願成寺に永享12年（1440年・室町時代）の木製の仏像が残っていることが確認されました。

これらは、元々、財部城の麓にあった興禅寺のものです。廃仏毀釈で失われたと思われていたが、他にも、僧侶が描かれた板絵や古文書、仏具、『財部町郷土史』に掲載されている棟札も現存していることが確認されました。

寺社研究の専門家で、市史編纂の執筆者である栗林先生によると、「永享12年の十一面観世音菩薩立像を筆頭に、いずれも非常に素晴らしい資料です。今後は、大願主をはじめ墨書に登場する人名や、古文書、僧侶の頂相などの解明がまたれます」と、今後の展開に期待したいところです。

このように市民の皆様からの情報は、市史を編纂していくうえで、貴重な情報源です。今後とも、皆様からの情報をお待ちいたしております。



興禅寺資料を確認する調査委員（財部町の願成寺にて）

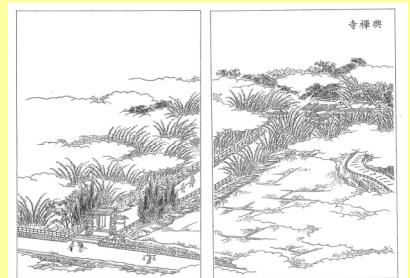


何と！この仏様は2つに分かれ、中から永享12年（1440）の墨書が現れました。ここには寄進者や仏師の名前が書かれています。

これまで市内では、室町時代の年号が書かれた仏像は確認されていません。また、明治初期の廃仏毀釈を乗り越えた貴重な仏像です。

興禅寺とは？

興禅寺は、財部城の麓（北西側）にあった寺で、『三国名勝図会』によると、臨済宗正興寺の末寺で、月川和尚を勧請し開山とあります。なお、初めは浦興禅寺集落にあり、その後、現地（財部の麓）に移転、廃仏毀釈により廃寺となりました。



● 曾於市史^{へんさん}編纂の基本方針

1. 郷土の歴史、文化や自然、先人たちの営みを明らかにしていくことで現在を見つめ直し、市民の郷土に対する関心と愛着を深められるよう、わかりやすく、広く親しまれるものを目指します。
2. 旧町の郷土史誌について必要な見直しを行うとともに、曾於市誕生への経過や歴史的変遷をたどりながら、近年の調査・研究で得られた知見や新たな資料を盛り込み、学術的に高い水準のものを目指します。
3. 市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育などで活用される市史となるように、編纂段階から市民等の参画や資料収集等の情報提供を求め、地域の歴史を掘り起こすことに努めます。

事業経過及び今後の計画

年	内 容	備 考
令和6年(2024)	12月 第1回市史編纂委員会 資料収集	曾於市史編纂事業開始 第1号市史編纂だより刊行
令和7年(2025)	2月 第1回市史編集委員会 2月 第2回市史編纂委員会 5月 第2回市史編集委員会 5月 第3回市史編纂委員会 12月 第4回市史編纂委員会 資料収集・調査	各専門部会で適時、会合及び現地調査等を実施中。 第2号編纂だより刊行
令和8年(2026)	随時、編纂委員会・編集委員会開催予定 資料収集・調査	編纂だより刊行
令和9年(2027)	随時、編纂委員会・編集委員会開催予定 資料収集・補足調査・原稿作成	編纂だより刊行
令和10年(2028)	原稿作成・入稿	編纂だより刊行
令和11年(2029)	校正・製本作業	市史刊行の案内
令和12年(2030)	市史刊行 (市制施行25年)	市史刊行
令和13年(2031)	市史簡易版作成	
令和14年(2032)	簡易版刊行	簡易版刊行

※調査の成果の進捗状況等によって、計画に変更が生じる可能性があります

曾於市史編纂委員会とは

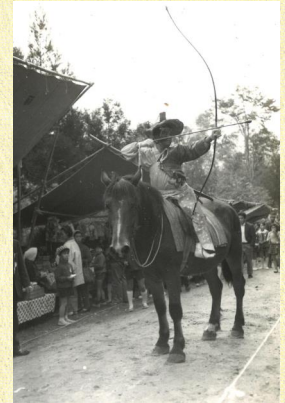
中村涼一編纂委員長(曾於市教育長)を中心に、市史の大まかな方向性を決定していく機関です。ここでは、基本方針や執筆者の選定を行い、また、郷土史のタイトルを『曾於市史』とすることを決定しています。

曾於市史編集委員会とは

「自然・地理編」「先史・古代編」「中世・近世編」「近代・現代編」「民俗・文化財編」「地区(校区)史編」の6つの分野の代表者から構成されており、原口泉編集委員長を中心に、『曾於市史』の内容について、専門的に検討していく機関です。また編集委員会の中に、実際に執筆する方々から構成される専門部会が設けられています。(右のページ参照)

自然・地理編

- 寺田仁志 文化庁文化財2課調査員 【植生・人と自然との関わり】
- 成尾英仁 県立博物館学芸主事 【気象・自然災害】
- 桑水流淳二 鹿児島大学非常勤講師 【地質・地形】
- 立久井昭雄 鹿児島植物同好会長・元鹿児島県立博物館学芸主事 【植物相】
- 中峯浩司 県立博物館学芸主事 【昆虫相】
- 渡邊 剛 県立博物館学芸主事 【動物相】



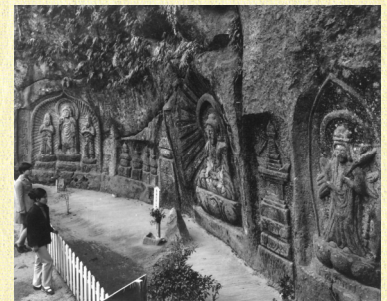
流鎬馬（昭和後期）

先史・古代編

- 前迫亮一 元上野原縄文の森園長 【縄文時代全般】
- 中原一成 前上野原縄文の森園長 【旧石器～縄文初頭】
- 東 和幸 県立埋蔵文化財センター文化財主事 【縄文後期終末～弥生・古墳・古代の一部】
- 永山修一 ラ・サール学園ほか非常勤講師 【古代全般】
- 栗畑光博 九州大学比較社会文化研究院研究員 【災害考古学的な側面と都城との関係】
- 前迫満子 始良市文化財保護審議会委員 【縄文時代の底部圧痕土器】

中世・近世編

- 新名一仁 宮崎市史編さん室専門員 【室町期～戦国時代（天正以前）】
- 佐藤雄基 立教大学教授 【島津荘成立～鎌倉末期】
- 温水基輝 匝瑳市教育委員会 生涯学習課生涯学習室 会計年度任用職員 【野辺氏の庶流深川氏】
- 米澤英昭 都城島津邸副館長 【戦国時代（天正以降）～江戸期】
- 尾口義男 鹿児島県史料集編集委員 【江戸期・外城制度・村落】
- 新福大健 黎明館学芸課主任学芸専門員兼企画資料係長 【江戸後期】
- 栗林文夫 黎明館調査史料室長 【寺社・宗教関連】



岩屋観音（昭和後期）

近代・現代編

- 原口 泉 志學館大学教授 【明治初期】
- 山崎克之 県立薩摩中央高等学校地歴公民科教諭 【教育関係】

民俗・文化財編

- 牧島知子 鹿児島市文化財審議会副会長
- 勝目興郎 曾於市文化財保護審議会会長（地区（校区）史編と兼務）
- 山口良久 曾於市文化財保護審議会副会長
- 上原尚士 曾於市文化財保護審議会委員
- 川添義一 曾於市文化財保護審議会委員
- 光行栄子 曾於市文化財保護審議会委員
- 松元里香 曾於市文化財保護審議会委員

民俗・文化財編の委員の方々が、
皆様の地域へ聞き取り調査に
来ますので、ご協力を
よろしく願いたします。

地区（校区）史編

- 勝目興郎 曾於市文化財保護審議会会長（民俗・文化財編と兼務）
- 各地域のみなさま

今後も執筆者は追加されていきます。

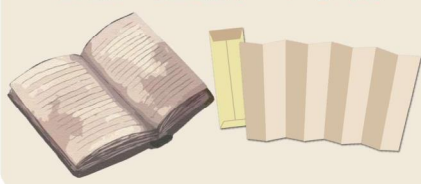
曾於市に ゆかりのある **資料・写真・情報を探しています**

あなたの家や、公民館の倉庫などに、こんなものはありませんか？

古文書・古記録



日記（日誌）や手紙



地域や学校などで 発行された記念誌



古写真・アルバム



カセットテープ・ビデオテープ などの音声・映像記録



実物資料



何でも情報を求めています

- 古くから言い伝えられている話
- 人々にあまり知られていない史跡や伝承地
- 今も残る、あるいは途絶えた年中行事・風習・集まり
- 昔の暮らし（生活様式・生活文化・郷土食）
- 郷土の発展に貢献した人物
- 昔の街並みのこと
- なりわい（農林業など）のこと
- 珍しい動植物や地形
- 昔の交通（古道・鉄道）のこと
- 戦争のこと

心当たりのある方や、情報等をお持ちの方は、下記（生涯学習課文化財係）までお気軽にご連絡ください！

《※ 提供頂いた写真等の資料は返却いたします》

市史編纂に参加してみませんか？

市史編纂に興味・関心のある方、資料収集・資料整理など市史づくりのサポートに関わってみたいという方がいらっしゃいましたら、下記（生涯学習課文化財係）まで、お気軽にご相談ください。



昔の龍虎城跡（財部城山公園）の入口。今とは違う造りになっています。このように、今と比較できる写真を探しています。



昭和33年頃の末吉町深川の葬儀時の様子。このように、デジタルカメラが普及する以前の時代（昭和～平成初期）の写真を探しています。



大隅町岩川の天神丘造成の様子。このように、街並みが変わっていく様子が分かる写真を探しています。

そ お し し へ ん さ ん
曾於市史編纂だより

第 2 号

発行日：令和 8 年 3 月 31 日

連絡先（曾於市史編纂事務局）

〒899-8692 鹿児島県曾於市末吉町二之方1980番地（曾於市役所 本庁舎本館3階）

曾於市教育委員会 生涯学習課 文化財係

電話 0986-76-8873 / FAX 0986-36-7500

メールアドレス o-syakyou@city.soo.lg.jp

※R8.4.1より【文化財・市史編纂室 市史編纂係】が新設、担当となります